

平成 29 年 度

川崎市下水道事業会計決算概況

川崎市水道事業会計決算概況

川崎市工業用水道事業会計決算概況

川崎市上下水道局

I 下水道事業会計

1 平成29年度 下水道事業会計決算概況

(1) 総括事項

下水道は、市民の快適な生活環境の実現と公共用水域の水質保全及び雨水排除等のために欠くことのできない都市の基幹施設であり、平成29年度も引き続き、本市の重要施策の一つとして、事業に取り組んでまいりました。

平成29年度は、「川崎市上下水道ビジョン」、「川崎市上下水道事業中期計画」に基づき、大規模地震や近年の地球温暖化に伴う短時間・局地的に降る大雨などを踏まえた地震・津波対策や浸水・ゲリラ豪雨対策、さらには、老朽化対策、高度処理、合流改善、地球温暖化対策など、下水道が抱える課題を解決するための様々な取組を確実に進めてまいりました。

一方、財政面では、下水道経営の健全化を図るため、事業運営の効率化に努めてきたことなどにより、当年度純利益を計上することができましたが、過去の建設投資の影響により、未だ企業債残高は高い水準にあり、依然として厳しい財政状況にあります。

(業務の状況)

平成29年度末における処理面積は1万708ha、処理人口は150万1,805人で、人口普及率は99.5%に達しています。

また、有収水量は1億5,012万2,368 m³で、下水道使用料は税抜きで224億127万9,718円です。

(建設及び改良工事)

平成29年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、164億7,818万8,956円となっております。

また、74億1,000万円を平成30年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、管きょについては、大規模地震発生時にも、市民生活への影響を最小限にするため、老朽管が多く地盤の液状化による被害が懸念される川崎駅以南の地域において、重要な管きょの耐震化工事を施行したほか、浸水リスクの高い大師河原地区などでの浸水被害軽減に向けた浸水対策工事を施行しました。

ポンプ場については、老朽化の進む渡田ポンプ場の再構築に向けた建設工事を施行したほか、京町ポンプ場などで老朽化した設備の更新工事を施行しました。

水処理センターなどについては、入江崎水処理センター西系の再構築工事を前年に引き続き施行したほか、等々力水処理センターにおいて、高度処理化に向けた、流量調整池の建設工事を施行しました。さらに、麻生水処理センターなどで老朽化した設備の更新工事を施行しました。

2 平成29年度 下水道事業会計決算総括表

(1) 予算執行状況

ア 収入（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的収入	44,311,538,000	44,119,304,009	△ 192,233,991	99.6%
資本的収入	64,649,829,000	56,915,293,727	△ 7,734,535,273	88.0%
合計	108,961,367,000	101,034,597,736	△ 7,926,769,264	92.7%

イ 支出（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的支出	42,344,873,000	40,198,955,556	△ 2,145,917,444	94.9%
資本的支出	82,216,612,000	74,162,789,457	△ 8,053,822,543	90.2%
合計	124,561,485,000	114,361,745,013	△ 10,199,739,987	91.8%

(2) 収益的収支・資本的収支

ア 収益的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
収益的収支	44,119,304,009	40,198,955,556	3,920,348,453

収益的収支差額（税抜額） = 当年度純利益（△純損失） 3,082,332,493

イ 資本的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
資本的収支	56,915,293,727	74,162,789,457	△ 17,247,495,730

資本的収入額（翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額 145,697,000円は除く）が資本的支出額に不足する額 17,393,192,730円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 835,560,056円、繰越工事資金 101,746,000円、減債積立金 1,807,853,170円、過年度分及び当年度分損益勘定留保資金 14,648,033,504円で補てんした。

(3) 資金過不足額

ア 平成29年度単年度資金過不足額

(単位 円)

区分	金額	備考
当年度純利益（△純損失） (A)	3,082,332,493	<補てん財源等の内訳> ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 835,560,056 ・当年度分損益勘定留保資金 15,601,273,422
資本的収支差額 (B)	△ 17,247,495,730	
補てん財源等 (C)	16,918,963,542	減価償却費 22,612,671,184 固定資産除却費 448,885,158 長期前受金戻入等 △ 7,460,282,920 ・退職給付引当金 482,130,064
単年度資金残額（△資金不足額） (A) + (B) + (C)	2,753,800,305	

※単年度資金残額には翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額 145,697,000円を含む。

イ 累積資金過不足額

(単位 円)

区 分	平成 28 年度 末 資 金 残 額	平成 29 年 度 単 年 度 資 金 残 額	平成 29 年 度 末 資 金 残 額 ※
資金残額	6,353,513,620	2,753,800,305	9,107,313,925
うち退職給付 引当金	970,629,121	482,130,064	1,452,759,185

※退職給付引当金を除く資金残額については、平成30年度以降の元金償還金に充てる予定である。

(4) 経営成績（税抜額）

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	33,153,724,029	営 業 収 益	33,753,588,531
営 業 外 費 用	5,360,415,342	営 業 外 収 益	8,536,575,944
特 別 損 失	720,304,097	特 別 利 益	26,611,486
総 費 用	39,234,443,468	総 収 益	42,316,775,961
当年度純利益	3,082,332,493	当年度純損失	-
前年度繰越 利益剰余金	184,507,583	前年度繰越 欠 損 金	-
その他未処分 利益剰余金変動額	1,807,853,170	-	-
当年度未処分 利益剰余金※	5,074,693,246	当年度未処理 欠 損 金	-

※当年度未処分利益剰余金のうち、現金預金の裏付けのない使用後の減債積立金分
1,807,853,170円は、平成30年度に資本金に組み入れる予定である。

(5) 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資 金 不 足 比 率	経 営 健 全 化 基 準
下 水 道 事 業 会 計	- (資金不足となっていない)	20%

※資金不足比率は現段階での速報値である。

3 業務の状況

年度 項目	平成 29 年度	平成 28 年度	増 △ 減 (%)
総人口 (人)	1,509,887	1,496,035	(0.9 %) 13,852
処理人口 (人)	1,501,805	1,487,834	(0.9 %) 13,971
人口普及率 (%)	99.5	99.5	(0.0 %) 0.00
処理面積 (ha)	10,708	10,706	(0.0 %) 2
排水区域面積 (ha)	10,708	10,706	(0.0 %) 2
水洗化対象件数 (件)	718,923	706,638	(1.7 %) 12,285
水洗化件数 (件)	715,488	703,009	(1.8 %) 12,479
水洗化助成件数 (件)	56	44	(27.3 %) 12
年間処理水量 (m ³)	204,869,769	202,013,130	(1.4 %) 2,856,639
1日平均処理水量 (m ³ /日)	561,287	553,460	(1.4 %) 7,827
年間有収水量 (m ³)	150,122,368	148,900,780	(0.8 %) 1,221,588
管きょ布設延長 (m)	3,128,944	3,120,561	(0.3 %) 8,383
下水道使用料 (円) (税抜額)	22,401,279,718	22,292,374,370	(0.5 %) 108,905,348

Ⅱ 水道事業会計

1 平成29年度 水道事業会計決算概況

(1) 総括事項

水道は、市民の快適な生活や産業活動の進展に欠くことのできない都市の基幹施設であることから、安全で良質な水の安定した供給に向けて取り組んでまいりました。

水需要については、人口が年々増加していることから、家事用等の使用では微増傾向にありますが、大口の使用では産業構造の変化により減少傾向にあり、水需要全体で見るとほぼ横ばいで推移しています。

平成29年度は、「川崎市上下水道ビジョン」、「川崎市上下水道事業中期計画」に基づき、大規模地震を踏まえた基幹施設や老朽化した管路の更新、耐震化を進めるとともに、小・中学校等への開設不要型の応急給水拠点の整備等に取り組んでまいりました。

一方、財政面では、再構築事業に伴う大規模施設の除却等が生じたことから、当年度純損失を計上しましたが、単年度資金については資金残額が生じました。

今後も、水道施設や管路の更新、耐震化等に伴う建設改良費が必要となりますが、これまでの累積資金の活用等で対応してまいります。

(業務の状況)

平成29年度末における給水人口は150万9,853人、給水栓数は85万7,387栓、普及率はほぼ100%です。

年間配水量は1億8,143万3,900 m^3 、1日最大配水量は平成30年1月27日に記録した53万1,500 m^3 です。

また、水道料金収入は税抜きで247億1,925万7,770円です。

(建設及び改良工事)

平成29年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、87億6,684万5,942円となっております。また、26億1,789万8,736円を平成30年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、配水施設費については、大規模地震の発生に備えて、基幹施設の更新や耐震化を図るため、末吉配水池更新工事や宮崎配水塔更新工事等を施行しました。平成29年度決算額は31億5,714万7,733円となっております。

耐震管路等整備事業費については、老朽化した管路の更新や耐震化を図るため、配水管布設替工事等を施行しました。平成29年度決算額は46億8,802万9,587円となっております。

その他の建設改良費については、長沢浄水場広報施設整備工事等の諸施設の改良工事を施行しました。

2 平成29年度 水道事業会計決算総括表

(1) 予算執行状況

ア 収入（税込額）

（単位 円）

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的収入	34,651,261,000	34,651,039,848	△ 221,152	100.0%
資本的収入	9,460,971,000	6,313,508,515	△ 3,147,462,485	66.7%
合計	44,112,232,000	40,964,548,363	△ 3,147,683,637	92.9%

イ 支出（税込額）

（単位 円）

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的支出	37,561,358,000	35,239,250,295	△ 2,322,107,705	93.8%
資本的支出	16,470,739,451	11,940,443,308	△ 4,530,296,143	72.5%
合計	54,032,097,451	47,179,693,603	△ 6,852,403,848	87.3%

(2) 収益的収支・資本的収支

ア 収益的収支（税込額）

（単位 円）

区分	収入	支出	収支差引
収益的収支	34,651,039,848	35,239,250,295	△ 588,210,447

収益的収支差額（税抜額） = 当年度純利益（△純損失） △ 1,194,774,283 円

イ 資本的収支（税込額）

（単位 円）

区分	収入	支出	収支差引
資本的収支	6,313,508,515	11,940,443,308	△ 5,626,934,793

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 5,626,934,793円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額574,559,610円、減債積立金908,071,880円、過年度分損益勘定留保資金4,144,303,303円で補てんした。

(3) 資金過不足額

ア 平成29年度単年度資金過不足額

（単位 円）

区分	金額	備考
当年度純利益（△純損失） (A)	△ 1,194,774,283	<補てん財源等の内訳> ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 574,559,610 ・当年度分損益勘定留保資金 6,548,902,238 減価償却費 5,887,666,494 固定資産除却費 1,487,431,193 長期前受金戻入等 △ 826,195,449
資本的収支差額 (B)	△ 5,626,934,793	
補てん財源等 (C)	7,303,594,088	
単年度資金残額（△資金不足額） (A) + (B) + (C)	481,885,012	・退職給付引当金 180,132,240

イ 累積資金過不足額

(単位 円)

区 分	平成 28 年度 末 資 金 残 額	平成 29 年 度 単 年 度 資 金 残 額	平成 29 年 度 末 資 金 残 額 ※
資金残額	10,337,131,003	481,885,012	10,819,016,015
うち退職給付 引当金	4,510,307,480	180,132,240	4,690,439,720

※退職給付引当金を除く資金残額については、平成30年度以降の建設改良費と元金償還金に充てる予定である。

(4) 経営成績 (税抜額)

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	32,354,642,449	営 業 収 益	28,704,561,313
営 業 外 費 用	1,065,282,040	営 業 外 収 益	3,523,841,739
特 別 損 失	7,722,217	特 別 利 益	4,469,371
総 費 用	33,427,646,706	総 収 益	32,232,872,423
当年度純利益	-	当年度純損失	1,194,774,283
前年度繰越 利益剰余金	17,651,253,929	前年度繰越 欠 損 金	-
その他未処分 利益剰余金変動額	908,071,880		
当年度未処分 利益剰余金※	17,364,551,526	当年度未処 理 欠 損 金	-

※当年度未処分利益剰余金のうち、みなし償却制度の廃止等に伴い発生した現金預金の裏付けのない17,214,879,096円は、平成30年度に資本金に組み入れる予定である。

(5) 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資 金 不 足 比 率	経 営 健 全 化 基 準
水 道 事 業 会 計	— (資金不足となっていない)	20%

※資金不足比率は現段階での速報値である。

3 業務の状況

年度 項目	平成 29 年度	平成 28 年度	増△減（％）
給水人口（人）	1,509,853	1,495,999	(0.9 %) 13,854
給水柱数（柱）	857,387	846,209	(1.3 %) 11,178
普及率（％）	99.99	99.99	(0.0 %) 0.00
年間配水量（m ³ ）	181,433,900	182,255,100	(△ 0.5 %) △ 821,200
1日最大配水量 （m ³ /日）	(1/27) 531,500	(7/10) 537,500	(△ 1.1 %) △ 6,000
1日平均配水量 （m ³ /日）	497,079	499,329	(△ 0.5 %) △ 2,250
年間有収水量（m ³ ）	167,721,116	166,582,023	(0.7 %) 1,139,093
1日平均有収水量 （m ³ /日）	459,510	456,389	(0.7 %) 3,121
有収率（％）	92.4	91.4	(—) 1.0 P
配水管の延長（m）	2,405,933	2,404,264	(0.1 %) 1,669
水道料金収入（円） （税抜額）	24,719,257,770	24,626,441,097	(0.4 %) 92,816,673

Ⅲ 工業用水道事業会計

1 平成29年度 工業用水道事業会計決算概況

(1) 総括事項

本市の工業用水道は、わが国初の公営工業用水道事業として昭和12年に給水を開始して以来、重化学工業を中心とした本市の産業経済の基幹施設としてその発展に寄与するとともに、活力と魅力あふれる力強い都市づくりを支える産業の振興に向けて、工業用水の安定供給に取り組んでまいりました。

水需要については、産業構造の変化や省資源対策による回収水の再利用等の影響を受け減少傾向にありましたが、近年はほぼ横ばいで推移しています。

平成29年度は、「川崎市上下水道ビジョン」、「川崎市上下水道事業中期計画」に基づき、大規模地震を踏まえた基幹施設の耐震化等を推進し、将来の工業用水の安定供給に向けて取り組んでまいりました。

一方、財政面では、施設再構築に伴う固定資産除却費の執行が平成28年度で終了したこと等から、当年度純利益を計上し、単年度資金についても資金残額が生じました。

今後も、工業用水道施設の整備等に伴う建設改良費が必要となりますが、これまでの累積資金の活用等で対応してまいります。

(業務の状況)

平成29年度末における契約会社・工場数は60社80工場、1日当たりの契約水量は51万5,570 m^3 、年間契約水量は1億8,813万9,130 m^3 、年間使用水量は1億4,199万9,100 m^3 です。

また、水道料金収入は税抜きで70億957万4,977円です。

(建設及び改良工事)

平成29年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、12億8,762万1,687円となっております。また、2億5,632万8,902円を平成30年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、配水施設費については、将来の工業用水の安定供給に向けて、工水3号配水本管1500mm不断水弁製作及び設置工事等を施行しました。平成29年度決算額は5億1,479万112円となっております。

その他の建設改良費については、長沢浄水場広報施設整備工事等の諸施設の改良工事を施行しました。

2 平成29年度 工業用水道事業会計決算総括表

(1) 予算執行状況

ア 収入（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的収入	7,870,919,000	7,771,103,241	△ 99,815,759	98.7%
資本的収入	767,099,000	471,149,311	△ 295,949,689	61.4%
合計	8,638,018,000	8,242,252,552	△ 395,765,448	95.4%

イ 支出（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的支出	7,373,045,000	7,035,064,290	△ 337,980,710	95.4%
資本的支出	2,833,066,686	1,968,515,689	△ 864,550,997	69.5%
合計	10,206,111,686	9,003,579,979	△ 1,202,531,707	88.2%

(2) 収益的収支・資本的収支

ア 収益的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
収益的収支	7,771,103,241	7,035,064,290	736,038,951

収益的収支差額（税抜額） = 当年度純利益（△純損失） 644,650,380円

イ 資本的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
資本的収支	471,149,311	1,968,515,689	△ 1,497,366,378

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 1,497,366,378円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 90,446,143円、減債積立金 288,690,830円及び過年度分損益勘定留保資金 1,118,229,405円で補てんした。

(3) 資金過不足額

ア 平成29年度単年度資金過不足額

(単位 円)

区分	金額	備考
当年度純利益 （△純損失） (A)	644,650,380	<補てん財源等の内訳> ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 90,446,143 ・当年度分損益勘定留保資金 1,032,648,726 減価償却費 1,019,100,977 固定資産除却費 134,690,146 長期前受金戻入等 △121,142,397 ・退職給付引当金 17,250,550
資本的収支差額 (B)	△ 1,497,366,378	
補てん財源等 (C)	1,140,345,419	
単年度資金残額 （△資金不足額） （A）＋（B）＋（C）	287,629,421	

イ 累積資金過不足額

(単位 円)

区 分	平成 28 年度 末 資 金 残 額	平成 29 年 度 単 年 度 資 金 残 額	平成 29 年 度 末 資 金 残 額 ※
資金残額	7,144,689,542	287,629,421	7,432,318,963
うち退職給付 引当金	700,715,450	17,250,550	717,966,000

※退職給付引当金を除く資金残額については、平成30年度以降の建設改良費と元金償還金に充てる予定である。

(4) 経営成績 (税抜額)

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	6,409,659,826	営 業 収 益	7,018,968,663
営 業 外 費 用	154,498,436	営 業 外 収 益	187,048,955
特 別 損 失	10,100	特 別 利 益	2,801,124
総 費 用	6,564,168,362	総 収 益	7,208,818,742
当 年 度 純 利 益	644,650,380	当 年 度 純 損 失	-
前 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金	6,681,123,240	前 年 度 繰 越 欠 損 金	-
そ の 他 未 処 分 利 益 剰 余 金 変 動 額	288,690,830		
当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	7,614,464,450	当 年 度 未 処 理 欠 損 金	-

※当年度未処分利益剰余金のうち、みなし償却制度の廃止等に伴い発生した現金預金の裏付けのない6,549,994,627円は、平成30年度に資本金に組み入れる予定である。

(5) 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資 金 不 足 比 率	経 営 健 全 化 基 準
工業用水道事業会計	— (資金不足となっていない)	20%

※資金不足比率は現段階での速報値である。

3 業務の状況

年度 項目	平成 29 年度	平成 28 年度	増△減 (%)
年度末契約会社・工場数	60社80工場	58社80工場	(3.4%、0.0%) 2社0工場
年間契約水量 (m ³)	188,139,130	188,259,250	(Δ 0.1 %) Δ 120,120
年度末1日当たり契約水量 (m ³ /日)	515,570	516,230	(Δ 0.1 %) Δ 660
年間使用水量 (m ³)	141,999,100	140,820,119	(0.8 %) 1,178,981
年間配水量 (m ³)	142,798,700	142,264,000	(0.4 %) 534,700
1日最大配水量 (m ³ /日)	(7/21) 428,800	(10/6) 425,100	(0.9 %) 3,700
調定水量 (m ³)	191,777,212	192,273,707	(Δ 0.3 %) Δ 496,495
年間超過水量 (m ³)	3,638,082	4,014,457	(Δ 9.4 %) Δ 376,375
配水管の延長 (m)	44,057	44,095	(Δ 0.1 %) Δ 38
水道料金収入 (円) (税抜額)	7,009,574,977	7,032,833,943	(Δ 0.3 %) Δ 23,258,966